

試聴会・訪問記掲載

シママセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 (2020.6.24)

1. はじめに

前回の訪問に引き続き、再度シママセンでのフォノイコライザーZANDEN Model 120 試聴の機会を持ちました。

2. 使用機器等

ラインアップは前回と同様ですが、フォノイコライザーの比較対象に Phasemation の EA-350 を使用します。

カートリッジ

Ortofon Cadenza Red

プレイヤー

TECHNICS SL-1000R



フォノイコライザー ZANDEN Model120





Phasemation EA-350 (比較対象)



プリアンプ

ZANDEN Model3100



パワーアンプ

ZANDEN Model8120



スピーカー

SONUS FABER Serafino



試聴室風景 1 (シマムセン HP より)



試聴室風景 2 (シマムセン HP より)

試聴に使用した盤は、次の通りです。

前回の訪問では、TELDEC、Columbia、Decca カーブと思われる盤を試聴しましたが、今回は TELDEC、EMI および RIAA とと思われる盤を持参しました。

ベートーベン ピアノソナタ 31 番・32 番 ウィルヘルム・ケンプ

ドイツグラモフォン MG-2367

ベルリオーズ 幻想 オットーク・レンペラー指揮フィルハーモニア

EMI EAC-40067

ドボルザーク チェロ協奏曲

ロストロポーヴィチ (vc) ジュリーニ指揮ロンドンフィル

EMI EAC-81007

井筒香奈江

「Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio / ダイレクトカットティング・

アット・関口台スタジオ」

JellyfishLB LBLP051



さらに、アナログアキュライザーAACU-1000 も持参して、フォノイコの出端子に装着してその効果を確認しました。



3. 試聴の経過

フォノイコライザーは Model120 の他、比較のために Phasemation の EA-350 を使用します。

最初に EA-350 で聴いておき、ついで Model120 に替え、最後に Model120 の出力端子に AACU-1000 を装着して試聴しました。以下、上記の盤は、下記の条件で試聴しました。

ベートーベンのピアノソナタ 32 番 1 楽章

EA-350

Model120 RIAA 正相

TELDEC 正相

TELDEC 逆相

EA-350、Model120 の RIAA の正相は、ともにフォノイコライザーとしての能力が優秀であり、ケンプのピアノリズムをうまく捉えられています。自宅でも聴くのと同様、少し高域が勝ちすぎるくらいがあります。TELDEC の正相にしますと、バランスがよく、落ち着きが出てきますが、TELDEC の逆相にしますと、音がぼやけ気味になりますので、正相のままではよいのではないかと考えられます。

ベルリオーズの幻想 4 楽章 / ドボルザークのチェロ協奏曲 1 楽章

EA-350

Model120 RIAA 正相

EMI 正相

EA-350、Model120 ともに、自宅でも聴くより、細かいニュアンスの表現がよくできており、チェロの艶も申し分ないところです。

Model120 の RIAA と EMI の比較ですが、幻想は 1963 年録音、チェロ協奏曲は 1977 年録音なので、もしかして前者は EMI カーブ、後者は RIAA カーブかと思って持参したものです。いずれも自宅でも聴くより、音は滑らかで、細かいニュアンスが聴き取れます。RIAA の正相と EMI の正相の違いは微妙で、それぞれ判断に迷うところで、幻想は EMI、チェロ協奏曲は RIAA と言い切れないところがあって迷いました。

井筒香奈江ダイレクトカッティング盤 1 曲目

EA-350

Model120 RIAA 正相

RIAA 逆相

この盤を持参した理由は、ダイレクトカッティング盤の真価を知るためにハイエンド装置で聴いてみたいということからです。EA-350、Model120 とも、自宅のシステム以上に、一聴してダイレクトカッティング盤の意図したところが、静寂感、音像の粒立ち、音の広がりなど、明白に分かりました。

Model120 で RIAA の逆相にしたのは、ボーカルやヴィブラフォンの音の広がり感がやや過剰とも思える節があったので、あるいは逆相気味かと思って、確認のために実施したのですが、逆相にすると、一挙に音像がぼやけてしまい、音の広がり感ももとのミキシングの意図ではないかと考えられます。

最後に Model120 に AACU-1000 を装着して下記を試聴しました。

ベートーベンのピアノソナタ 32 番 1 楽章

Model120 TELDEC 正相

井筒香奈江ダイレクトカットティング盤 1 曲目

Model120 RIAA 正相

ともに、Model120 のもともとの再生クオリティが高いために、激変とまでは行きませんが、ピアノソナタ 32 番ではピアノの響き具合、ダイレクトカットティング盤ではボーカルのニュアンスが、より深く捉えられる傾向がありました。

以上、短時間で多くの検証を行ったため、判断に正確さを欠くところがあったかもしれませんが、有益な知見が得られたと思います。

4. まとめ

前回のシマムセン ZANDEN フォノイコライザー試聴報告 (2020.6.9)と同様、ZANDEN のフォノイコライザーModel120 のイコライザーカーブと位相の切り替えは、古いアナログ盤を聴くには有用と判断されます。盤一枚一枚、最適条件を見つけて丁寧に聴いていくことが重要ということが分かりました。

比較に使用した、前回の C-37 と今回の E-350 もそれぞれ魅力的なところがあり、支持者が多いことが理解できました、特に、E-350 はコストパフォーマンスに優れているという印象です。

以上